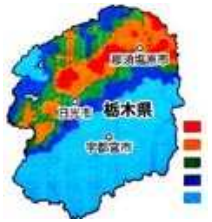
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.03.30//no.23



赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万 ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

日光市は危険と言わず放り投げ!!

小学校の平均線量//日光市 0.236マイクロシーベルト
那須塩原市0.208 福島市0.157 南相馬市0.118

前号は、南相馬市から日光市に避難した家族が１年ぶりに帰郷の話でした。そして、日光市の放射能汚染された小学校の不可解な実態、対応が明らかになりました。なぜ、放射線量が高く、「安全、自由で屋外活動もＯＫ」なのでしょうか。日光の線量は、少しでも低く出すためにか校庭の中心での測定、さらに測定方法も？疑問です。

日光市の子どもたち市民は、放射能汚染地帯に取り残されています。県内でも、日光市の2倍以上の汚染された那須塩原市は、現在、日光市より低くなっています。さらに、原発近くの南相馬市、福島市と比べてください。日光の実態が浮かび上がります。

❖日光市立小学校/26　小学校平均　①0.378➡**0.236**μSv/h　62.4%に低減
❖那須塩原市立小学校/25　小学校平均　①0.844➡**0.208**μSv/h　26.1%に低減

〈日光市立、那須塩原市立小学校の放射線量の分布経過〉

μSv/h	0.1～0.2	0.2～0.3	0.3～0.4	04.～0.5	05.～0.6	0.6～
日光市①	3校	2校	13校	2校	4校	2校
平均01.10～20	9校	11校	5校	1校		
那須塩原市①	-	-	1校	1校	3校	20校
2012.03.26	15校	9校	1校	-	-	-

①　2011.05.13～19/とちぎ県教育委員会、単位/毎時マイクロシーベルト

❖南相馬市立小学校/12(2011.04.05➡12.03.26)　平均1.706➡**0.118**μSv/h　6.9%に低減」
❖福島市立小学校/29(2011.05.16～06.09➡2012.02.14～03.27)
小学校平均　1.854➡**0.157**μSv/h　8.5%に低減

日光市の『放射能』は、安全な『放射能』ですか。いや、観光優先のために様々な誤魔化しで、子どもたち市民を放射能漬にして危険な状況に置いています。

風が吹くときは
マスクをしよう!!
布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげ、それを吸い込むことになります。身体に入ると内部被ばくの危険が高まります。また、布団・洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッとの注意の心がけを！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

①　移住義務ゾーン	5mSv/年以上
②　移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③　放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。
❖**年1mSv/時 0.114μSv**/公衆被ばく限度基準/ICRP
*内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ **政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv** ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、* など〉
❑**栃木県原発崩壊前//0.038～0.044μSv/h**❑

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm
マイクロシーベルト/以上～未満

0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1ヶ所	0.2%

〈News〉日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全でした〈日光観光安全宣言〉

❑中禅寺湖//県内の多くの河川、湖沼、魚は放射能汚染。県は釣り離れ、観光への対応策で、釣ってから放す「キャッチ&リリース」を認め、安全宣伝、怖い無知社会です。
❑日光(298bq)、県内12市町で原木栽培生シイタケ(露地)の出荷停止。すでに3月末まで 500Bq/kg 以内のシイタケが出回り、これからは 100 以下。内部被ばくが怖い。
❑1年もたってから浄水前の原水の調査始める。これも県独自ではなく国のお声とは?
❑日光市鬼怒川上流浄化センターで汚泥 500bq/kg(3月21日採取)。前回＋270bq。
❑〈塩谷町〉船生小、18日、保護者や学校関係者が遊具周辺など除染。
❑〈大田原市、矢板市〉22日、除染実施計画を発表。学校、幼稚園～森林河川まで。
❑〈那須塩原市〉23日、除染計画を説明。2013.08 末まで、昨年8月末の 60%減へ。

〈放射能の危険!〉 見たり聞いたり話したり

❑土まみれの手を止めてよかった❑

手袋を土まみれにしながらしゃがんで庭の土をならしていたおばさん、土に放射能がたまっていることを話すと、「やっぱりそうだね」と思い出したように、「やめよう」となりました。しかし、花を咲かせるつもりだった楽しみまで取ってしまったようで、心が晴れませんでした。〈大室地区〉

❑枯れ葉、砂遊び！「お兄ちゃん」❑

市営住宅でカード遊びの子たちに会い、また、遊び場で再会、4歳の子とじゃれあった後、線量測定。その子は落ち葉や砂をいじり始め･･。どうしようか悩み、一緒にいたお兄ちゃんに「放射能のこと知っている。枯れ葉や砂に放射能があるから辞めて別のことを」と話してホッと。

〈お願い〉 脱原発１０００万人署名に協力ください!!

昨年、知人から『署名』をすすめられ、まず、「放射能から子どもを守る」ことが必要と、そのままになっていました。2月末集約で約420万人です。5月末まで頑張るとのこと、「原発」再稼働を許さないために！❖連絡を頂ければ用紙お届けします（tel 26-0130）

❖チラシ･バックナンバー見れます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/

〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288･26･0130//nairamdal-1871@dream.jp

日光市は、『放射能汚染は安全』との姿勢！

政府、自治体など大きな影響力のある機関、専門家などが、放射能の影響について「安全」「安心して生活できる」「大丈夫」「問題ない」などを口にすることは、一番危ない認識･姿勢です。なぜなら、安全な放射能などないのですから！！

昨年、原発が崩壊以来、日光市は、放射能の汚染が高い状態が続き、年間1ミリシーベルトを超えるためイライラがつのっていたようです。しかし、政府は、緊急時対応として、年間1～20ミリシーベルトの基準を示したため、日光市は、勝手に安全基準と解釈して、安堵して「安全」という認識を手に入れたようです。そのころ内閣官房参与の小佐古氏（東大教授放射線安全学）は、政府の小中学校の屋外活動を制限する限界放射線量を年間20ミリシーベルトとしたことに抗議し辞任しました。（2011.04.29）

その後、日光市議会は、9月26日、市議の研修として崎山さん（放射能は危険との認識に立ち、内部被ばくの危険性を訴える）の講演を行います。この考え方は、日光市にとって都合の悪いものだったのでしょう。その後、10月24日、菊池氏による市民向けの「放射能」の講演を開催、彼は、「100ミリシーベルト以下は放射線影響の確認なし」と「安全」という認識です。日光市にとって都合のよい人でした。その後、自信を持って年間100ミリシーベルト以下なら安全という姿勢をとっています。

ですから、日光市は、小中学校校庭など高レベルの放射線汚染の除染をする意志がありません。ただ、一部、雨どいなどホットスポット地上 1cm で1マイクロシーベルト以上の場所の除染を進めただけです。そして、「1 マイクロシーベルト以下なら問題ない」と、校庭などでの屋外活動を続けさせています。政府は、1 マイクロシーベルト以下は安全とは言っていませんが、日光は、堂々と「安全」と言い切ります。

❑ **538**カ所/2011.10.03～12/**日光市測定**(地上50cm　1km間隔で測定)　毎時マイクロシーベルト

- ❖鬼怒川温泉地域　0.26-0.28-0.31-0.36-0.37-0.38-0.39
- ❖川治温泉地域　0.2-0.23-0.25-0.26-0.28-0.34　〈同じ線量は１度記載〉

放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
同産地、同じ食品は食べ続けない。全ての放射線量測定をして安全が確認できない中では、汚染されるものを食べ続けないためのチエ。

❑放射能の危険から子どもを守る　高い線量の場所には近づかない。マスクをする。
「保養」「一時避難」「疎開」「移住」などを考える。行政の支援が必要。

放射能から子どもを守る

５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪ 11

毎朝、子どもが起きて「ママ、平和だね」

○×市在住/仮名 ナナオ

昨年、子どもの放射能汚染が心配で、少しでも身体の中に溜まっている放射性物質をなくすことと、ストレス解消に夏休み京都に『プチ疎開』してました。

ホテルに泊まっていたのですが、毎朝、子どもが起きて、ホテルの窓のカーテンを開けると、「ママ、平和だね。ここは、放射線気にしなくていいんだよね。」って毎朝毎朝、言うんです。泣けてきますよね。。。子供にこんなこと言わせちゃいけないけど、これが現実なんだな。。。と。

確かに、関西、西日本は、テレビで『福島の原発事故』のことをチラッとやってましたが、な～んか、同じ日本のことかな？って思うほど、他人事です。きっと、わたしも、もし、関西に住んでいたら、「あ～、福島やその周辺の人たちかわいそうだなぁ」くらいで、きっと他人事で日々をたんたんと何事もなかったようにいつもと変わらず過ごしてしまっていたと思います。

それが、いいとか悪いとかではなく、ただ、普通に。。。。あ～、その≪普通≫が懐かしいです。とても。。。ただ、普通に暮らしたいだけなのに。。。

ごめんなさい、長くなりました。

＊　＊　＊

最後に、わたしがツイッターでつぶやいた、名言！？迷言！？を一つ。
外に出れば『放射能』、頭の中は『放射脳』、24時間『放射悩』
一粒残らず『放射NO～！！』　おやすみなさい。　〈次号に、つづく〉

〈放射能の危険!〉 見たり聞いたり話したり

❑ 被ばくの環境から、娘のためプチ保養へ ❑

南相馬との比較、とてもよいと思います。考えさせられる人、多いんじゃないかな～？　話を聞くところによると、福島県は学校での屋外活動は0．19μSv/h以下、時間も決まっているようです。これでは、栃木の子どもは（特に県北の！）数年後、福島県の子どもより健康でなくなるかも？！　Mさん、子どもが楽しそうでよかったですね。

私は子どもを守るために家族で移住したいです。でも、本気で移住を考えると、故郷を追われるってこういうことなんだ‥と、辛く寂しい気持ちにもなってしまいます。娘は、最近、外で遊びたがることが多いので心が痛みます。なにはともあれ、娘のためにも、放射線被ばくの環境から短期間でも離れるために、近く山梨へのプチ保養に行ってきます。〈Yさん〉